

開館3周年記念特別展

CELEBRATING THE MUSEUM'S 3RD ANNIVERSARY
MODERN ART COLLECTIONS
FROM PARIS, TOKYO AND OSAKA
EXHIBITION ORGANIZED WITH THE COLLABORATION OF
THE MUSÉE D'ART MODERNE DE PARIS, PARIS MUSÉES

3つそろえば、新たな視点。

TRIO

パリ
東京
大阪

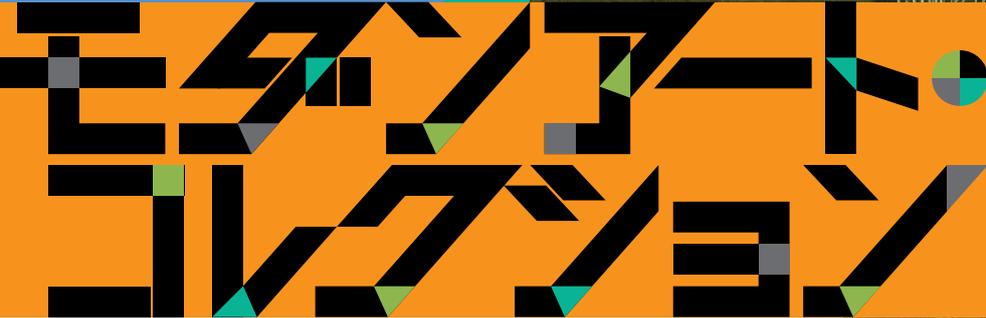
パリ市立
近代美術館

東京国立
近代美術館

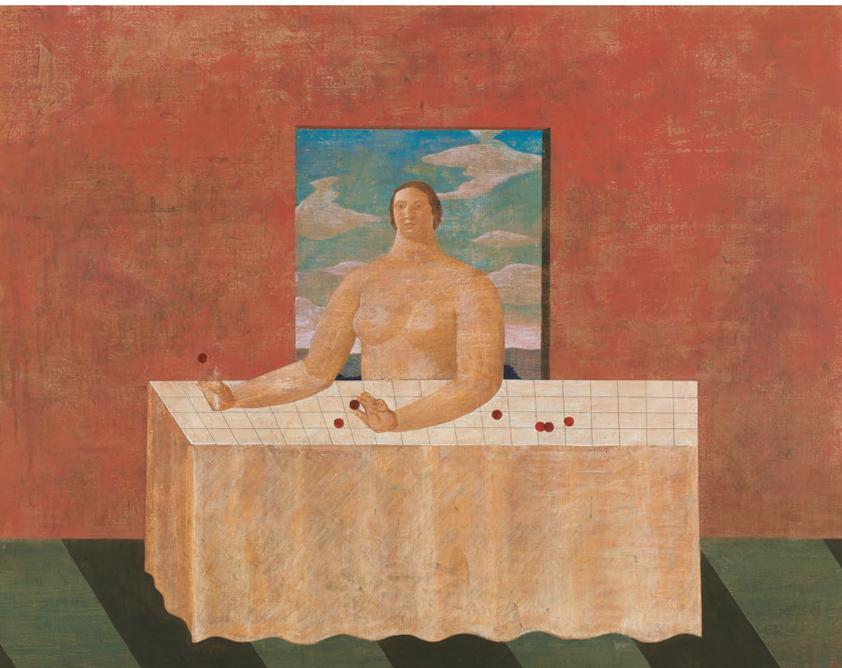
大阪中之島
美術館



ジャン・コクトー「白うさぎ」1957年、パリ市立近代美術館 photo: Paris Musées / Musée d'Art Moderne de Paris



PRESS RELEASE



有元利夫《室内楽》1980年、東京国立近代美術館



ルネ・マグリット《レディ・メイドの花束》(部分)1957年、大阪中之島美術館

現実と非現実のあわい
#ヒトなのかヒトでないのか
#名作へのオマージュ

MAM MUSÉE D'ART MODERNE DE PARIS

PARIS MU SÉES

MOMAT The National Museum of Modern Art, Tokyo



大阪中之島美術館
NAKANOSHIMA MUSEUM OF ART, OSAKA

3館のコレクションから 1点ずつ、珠玉のトリオ全34組。

TRIO展について

パリ市立近代美術館、東京国立近代美術館、大阪中之島美術館。豊かなモダンアートのコレクションを築いてきた3館のコラボレーションによる、これまでにない切り口の展覧会を開催します。本展では、それぞれのコレクションから共通点のある作品を1点ずつ選び、トリオ(3点1組)で紹介するというユニークな展示を試みます。主題やモチーフ、色や形、素材、作品が生まれた背景など、自由な発想で組まれたトリオの共通点はさまざま。各館コレクションを代表する名作から初公開となる作品まで、総勢110名の作家による約150作品で34組のトリオを組み、それを7つの章に分けて紹介することで、モダンアートの新たな魅力を浮かび上がらせてます。

大阪中之島美術館の開館3周年を記念する本展では、同館が誇るモディリアーニ、佐伯祐三の代表作をはじめ、マグリット、ダリ、ロスコ、バスキアなどの優品が、開館記念展以来、一堂に展示室に揃います。また、コレクションとして初披露となる佐藤雅晴、百瀬文などの新収蔵作品も見逃せません。これらがパリ市立近代美術館、東京国立近代美術館のどの作品とトリオを組み、どのようなハーモニーを生み出すのか、ぜひ実際にご覧いただき、お楽しみください。

みどころ

01 二度とないかも!?
パリ、東京、大阪の
名品による
夢のトリオ展が実現

パリ、東京、大阪。個性的な3都市を代表する3つの美術館による共同企画、「TRIO(トリオ)」展。34のテーマに沿って、それぞれのコレクションからぴったりの作品をセレクト。「モデルたちのパワー」「空想の庭」「日常生活とアート」など、本展のためだけに特別なトリオを組みました。3つの美術館を代表する作品たちの一期一会がモダンアートの新しい魅力を開きます。

02 ピカソ、ローランサン、
バスキア、藤田嗣治、
佐伯祐三、草間彌生……
総勢110作家、
約150作品が集結

20世紀から現代にかけて活躍してきた、西洋と日本の110名のアーティストの作品が一堂に会します。モダンアートを代表する巨匠から現代に活躍するアーティストまで、初来日32点をふくむ約150点をご覧いただけます。

03 マティス、萬鉄五郎、
モディリアーニが
トリオに!? 意外な3点
を見て、比べて、話したくなる

東西の巨匠が同じテーマで絵を描いたら…? アートファン垂涎の組み合わせが実現します。バスキアと佐伯のストリートアート対決、藤田とローランサンの女神競演、ピカソと萬のキュビズム作品、交友関係にあった岡本太郎とアルプの響き合う作品どうしの組み合わせも必見です。

TRIO解説

各トリオのテーマと#(ハッシュタグ)は、3つの作品を見て、比べて、誰かと話したくなるヒントになっています。

コレクションのはじまり

#初期メンバー
#座るひと



佐伯祐三(郵便配達夫)1928年、大阪中之島美術館



ロベール・ドロネー(鏡台の前の裸婦(読書する女性))1915年、パリ市立近代美術館
photo: Paris Musées / Musée d'Art Moderne de Paris



安井曾太郎(金蓉)1934年、東京国立近代美術館

それぞれのコレクションのはじまりを刻んだ作品の中から、椅子に座る人物像をご紹介します。パリからは、1961年の開館の契機を作ったジラルダン博士の遺贈品より、20世紀前半の抽象美術をけん引したフランス人画家、ロベール・ドロネーの裸婦。東京からは、最初の購入作品の一つ、日本近代を代表する洋画家、安井曾太郎の肖像画。大阪からは、美術館構想のきっかけとなった実業家、山本發次郎の旧蔵品より、大阪市出身の佐伯祐三の代表作、という3点です。これらの作品収蔵から今日に至るまで、3館のコレクションは拡充を続け、各館の活動を体現するものに成長してきました。本展では、3館がどのような作品を収集してきたのか、コレクションして展示する主体としての美術館にも注目しながら、トリオをお楽しみください。

空想の庭

#メルヘンガーデンズ
#植物好き



アンドレ・ボーション(果物棚)
1950年、大阪中之島美術館



ラウル・デュフィ(家と庭)
1915年、パリ市立近代美術館
photo: Paris Musées / Musée d'Art Moderne de Paris



辻永(種と仔山羊)
1916年、東京国立近代美術館

いずれも植物が画面全体を覆っていますが、実は3人の画家たちはみな植物に深いゆかりがあります。植物園の近くに住み、動植物をモチーフにしたテキスタイルデザインを数多く手がけたデュフィ、草花を愛した父の影響でかつて植物学者を志したことのあった辻永、そして独学で画家になる前に園芸業を営んでいたボーション。彼らはそれぞれが好んだ草花や果物、動物をリズムカルに画面に配置しながら、自由にイマジネーションを羽ばたかせ、絵の中にしか存在しない空想の庭とでも呼ぶべき世界を作り出しています。草花で埋め尽くされた装飾的な画面は、どこか幻想的な雰囲気に包まれ、花や果物の香りが匂い立つようです。

現実と非現実のあわい

#名作へのオマージュ
#ヒトなのかヒトでないのか



ルネ・マグリット《レディ・メイドの花束》
1957年、大阪中之島美術館



ヴィクトル・ブローネル《ベルレ通り2番地2の出会い》
1946年、パリ市立近代美術館
photo: Paris Musées / Musée d'Art Moderne de Paris

日本初公開

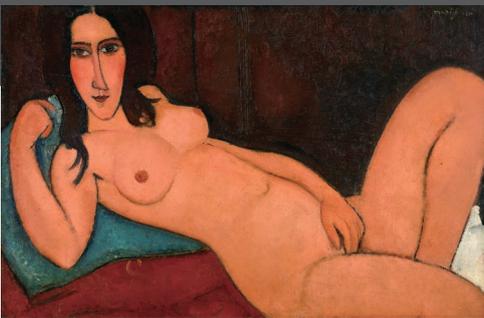


有元利夫《室内姿》
1980年、東京国立近代美術館

このトリオは、いずれも過去の絵画を参照し、画家が自らの分身のような存在を描き込むことで、現実と非現実のあわいを出現させているという点で共通しています。ブローネルは、かつてアンリ・ルソーが住んだベルレ通り2番地2に引っ越したことから、ルソーの《蛇使いの女》(1907年、オルセー美術館)に、自らが生み出した、巨大な頭部と2つの身体、6本の腕を持つ「コングロメロス」を登場させています。マグリットはしばしば描いた山高帽の男の背に、ボッティチェリの《春》(1482年頃、ウフィツィ美術館)の花の女神フローラを重ねました。ピエロ・デッラ・フランチェスから初期ルネサンスのフレスコ画に魅せられた有元の絵画は、他の多くの作品にもみられる古典的な女性が中央に鎮座し、非現実的でありながら懐かしさを漂わせています。

モデルたちのパワー

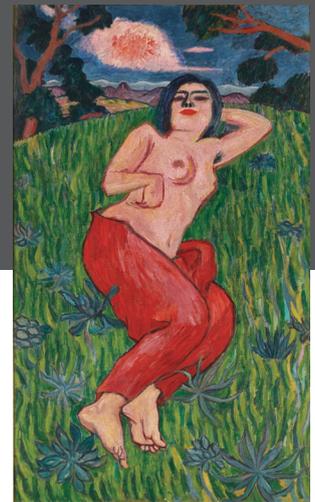
#お決まりのポーズ
#私たちくつろいでます



アメデオ・モディリアーニ《髪をほどいた横たわる裸婦》
1917年、大阪中之島美術館



アンリ・マ蒂斯《椅子にもたれるオダリスク》
1928年、パリ市立近代美術館
photo: Paris Musées / Musée d'Art Moderne de Paris



萬敏五郎《裸体美人》(重要文化財)
1912年、東京国立近代美術館
展示期間: 9/14(土)~11/22(金)

大胆にくつろいだポーズで、思い思いに寝そべるモデルたち。西洋絵画の歴史の中で脈々と続いてきた横たわる女性像は、理想美を体現し、男性に見られる対象として、しばしば無防備な姿で描かれてきました。しかし、挑発するようにこちらを見つめるモディリアーニの裸婦、寝ころんでこちらを見おろす萬の裸体美人、そして見られることにまるで無頓着なマティスのオダリスクには、私たちの視線を跳ね返し、彼女たちそれぞれの美を誇るようなパワーがみなぎっています。

色彩とリズム

#女性アーティストたちの抽象
#カラフルでダイナミック



菅野聖子《フーリエ変換(プロコフィエフ 東の間の幻影)》
1978年、大阪中之島美術館



ソニア・ドローネー《色彩のリズム》
1964年、パリ市立近代美術館
photo: Paris Musées / Musée d'Art Moderne de Paris

日本初公開



田中敦子《作品66-SA》
1966年、東京国立近代美術館
© Kanayama Akira and Tanaka Atsuko Association

円を中心とした幾何学的フォルムと、赤、青、黄、緑といった原色に近い色彩がリズムカルに並べられています。1960年代から70年代頃、フランスと日本で活動する3人の女性の画家たちによって、非常によく似た構造の絵画が生み出されました。ドローネーは、20世紀初頭から幾何学的抽象を追求し、テキスタイルデザインの経験を経て、豊かな形態や色彩のレパートリーを生かした作品を制作しています。田中の作品は、無数の電球・管球が明滅する《電気服》(1956年)のための円(電球)と曲線(コード)のドローイングから発展したものです。菅野は音楽や哲学、数学、物理から線を引く法則を導き出し、やがて鮮やかな色彩と組み合わせるようになります。見た目は似ていても、それぞれの成り立ちは全く異なります。

日常生活とアート

#日常とアートのあいだ
#影もステキ

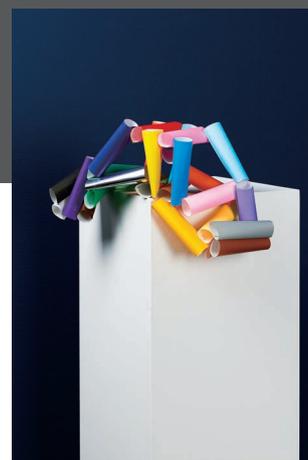


倉俣史朗《Miss Blanche(ミス・ブランチ)》
デザイン1988年 製作1989年、大阪中之島美術館



ジャン＝リュック・ムレーヌ《For birds》
2012年、パリ市立近代美術館
© ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2024 C4505
photo: Paris Musées / Musée d'Art Moderne de Paris

日本初公開



富井大裕《roll(27 paper foldings)#15》
2009年、東京国立近代美術館
© Motohiro Tomii, Courtesy of Yumiko Chiba Associates
撮影:大谷一郎

このトリオは、日常生活で用いるものをアートの領域に引き入れることで、私たちの常識的概念に揺さぶりをかけます。ムレーヌの《For birds》はありふれた鳥かごのようですが、その隙間や開口部はガラスで完全に密閉されています。まるで内部に空を囲い込み、檻の外=自由という常識を逆転させているかのようです。富井の《roll...》は、折り紙をホチキスで留めただけの簡単な構造でできています。紙がつぶれたり破れたりしたら、指示書に従い新しい折り紙を用いて作り直すことができ、芸術作品の永続性に疑問を投げかけます。一方、倉俣の《Miss Blanche(ミス・ブランチ)》は、椅子としての機能を持ちながら、オブジェのような存在感を放ちます。これは家具でしょうか?それともアートでしょうか?

美術館の紹介

▶ 大阪中之島美術館



大阪中之島美術館は、2022年、大阪市中心部に開館。19世紀後半から今日に至る日本と海外の代表的な美術とデザイン作品を核としながら、地元大阪で繰り広げられた豊かな芸術活動にも目を向け、絵画、版画、写真、彫刻、立体、映像など多岐の領域にわたる6,000点超を所蔵。

主な本展出品作家

※五十音順

菅野聖子／倉俣史朗／佐伯祐三／サルバドール・ダリ／
ジャン＝ミシェル・バスキア／ルネ・マグリット／
アメデオ・モディリアーニ／森村泰昌／マーク・ロスコ／
マリー・ローランサン

▶ 東京国立近代美術館



東京国立近代美術館は、東京の中心・皇居のお濠の前に建つ日本で最初の国立美術館。最大の特徴は、横山大観、上村松園、岸田劉生らの重要文化財を含む13,000点を超える国内最大級のコレクション。19世紀末から現代までの幅広いジャンルにわたる日本美術の名作を、海外の作品もまじえて多数所蔵。

主な本展出品作家

※五十音順

石内都／岡本太郎／小倉遊亀／岸田劉生／草間彌生／
パウル・クレー／田中敦子／富井大裕／奈良美智／藤田嗣治

▶ パリ市立近代美術館



シャンゼリゼ通りとエッフェル塔の間に位置するパリ市立近代美術館の宮殿は、1930年代の壮麗な建築の一例。15,000点以上の作品を所蔵するパリの重要な文化施設であり、フランス最大級の近現代美術館のひとつ。

主な本展出品作家

※五十音順

イヴ・クライン／マルク・シャガール／ヘンリー・ダーガー／
ジョルジョ・デ・キリコ／ラウル・デュフィ／ソニア・ドローネー／
パブロ・ピカソ／ピエール・ボナール／アンリ・マティス／
モーリス・ユトリロ

photo: Fabrice Gaboriau

出品作家

出品作家一覧

カレル・アペル	ピエール・ボナール	天野龍一	辻永
ジャン・アルプ(ハンス・アルプ)	セルジュ・ポリアコフ	有元利夫	津田洋甫
アルマン(アルマン・フェルナンデス)	ルネ・マグリット	池田遙邨	東郷青児
サビーヌ・ヴァイス	アンリ・マティス	イケムラレイコ	東松照明
シュザンヌ・ヴァラドン	アルベール・マルケ	石内都	百々俊二
グザヴィエ・ヴェイヤン	アンリ・ミショー	出光真子	富井大裕
パブロ・ガルガーリョ	ジャン=リュック・ムレーヌ	岡本更園	富山治夫
アレクサンダー・カルダー	ジャン・メッツアンジェ	岡本太郎	中西夏之
アンリ・カルティエ=ブレッソン	ファウスト・メロッティ	小倉遊亀	奈良美智
イヴ・クライン	アメデオ・モディリアーニ	恩地孝四郎	奈良原一高
パウル・クレー	モーリス・ユトリロ	河合新蔵	長谷川利行
マルク・シャガール	ジェルメーヌ・リシエ	川上涼花	畠山直哉
シャイム・スーティン	エル・リシツキー	川崎亀太郎	早川良雄
ヘンリー・ダーガー	マルク・リブー	菅野聖子	原勝四郎
サルバドール・ダリ	フェルナン・レジェ	菊畑茂久馬	藤島武二
ジョルジョ・デ・キリコ	マリー・ローランサン	岸田劉生	藤田嗣治
ジュリアン・ディスクリ	マーク・ロスコ	北代省三	前田藤四郎
レイモン・デュシャン=ヴィヨン		北野恒富	松本竣介
ラウル・デュフィ		北脇昇	丸木俊(赤松俊子)
フランソワ・デュフレヌ		草間彌生	三岸好太郎
フェリックス・デル・マルル		倉俣史朗	村山知義
ロベール・ドアノー		小泉癸巳男	百瀬文
ソニア・ドロネー		小出樞重	森村泰昌
ロベール・ドロネー		古賀春江	安井曾太郎
ジャン=ミシェル・バスキア		佐伯祐三	柳原義達
パブロ・ピカソ		佐藤雅晴	吉原治良
ジャン・フォートリエ		佐保山堯海	萬鉄五郎
ブラッサイ		汐見美枝子	
コンスタンティン・ブランクーシ		菅井汲	
マリア・ブランチャール		杉浦非水	
ヴィクトル・ブローネル		高梨豊	
アンドレ・ポーシャン		辰野登恵子	
ウンベルト・ボッチョーニ		田中敦子	

開催概要、プレスお問い合わせ先

開催概要

開館3周年記念特別展
TRIO パリ・東京・大阪 モダンアート・コレクション
Celebrating the Museum's 3rd Anniversary
Trio: Modern Art Collections from Paris, Tokyo and Osaka
Exhibition organized with the collaboration of the Musée d'Art Moderne de Paris, Paris Musées

展覧会
公式サイト <https://art.nikkei.com/trio/>

会 期／2024年9月14日(土)－12月8日(日)
会 場／大阪中之島美術館 4階展示室
開場時間／10:00－17:00(入場は16:30まで)
休 館 日／月曜日(ただし9/16、23、10/14、11/4は開館、翌火曜日休館)

主 催／大阪中之島美術館、東京国立近代美術館、日本経済新聞社、テレビ大阪
特別協力／パリ市立近代美術館、パリミュゼ
協 賛／SOMPOホールディングス、ダイキン工業、三井住友銀行、三井不動産、ライブアートブックス
協 力／日本航空

観覧料(税込)	一 般	高大生
当 日	2,100円	1,500円
前売り・団体	1,900円	1,300円

◎会期中、一部作品は展示替えがあります。 **前期** 9月14日－10月27日 **後期** 10月29日－12月8日

お問い合わせ

TEL／06-4301-7285(大阪市総合コールセンター)
受付時間／8:00－21:00(年中無休)
〒530-0005 大阪市北区中之島4-3-1 <https://nakka-art.jp>

プレスお問い合わせ先

「TRIO展」(大阪会場)広報事務局(株式会社TMオフィス内)
担当／馬場・永井・西坂
TEL／090-6065-0063(馬場) 090-5667-3041(永井)
テレフォンセンター／050-1807-2919 FAX／06-6231-4440 E-MAIL／trio2024@tm-office.co.jp

CELEBRATING THE MUSEUM'S 3RD ANNIVERSARY
**MODERN ART COLLECTIONS
FROM PARIS, TOKYO AND OSAKA**
EXHIBITION ORGANIZED WITH THE COLLABORATION OF THE MUSÉE D'ART MODERNE DE PARIS, PARIS MUSÉES